



扉

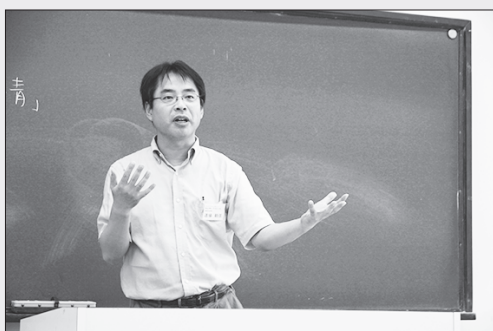
著者	竹信 三恵子
雑誌名	和光大学現代人間学部紀要
巻	10
ページ	205-205
発行年	2017-03-10
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00004194/

[特別企画]

道場親信教授
追悼

さる9月14日、道場親信教授が亡くなった。享年49歳という若さであった。肝臓がんと果敢に闘いながら、道場教授は亡くなる直前まで遺著『下丸子文化集団とその時代』に取り組み、かつ、和光大学の今後をめぐる議論にも積極的に参加され続けてきた。社会運動・文化運動研究の中心となり、これからの和光大学を牽引する存在でもあった道場教授のあまりにも早すぎる死は大きな打撃であり、損失だった。放置すれば消えてしまいかねない市井の人々の草の根の動きを丹念に掘り起こし、記録し続けたその業績は、いま私たちに計り知れない重みをもって迫ってくる。また、学生たちにそうした目の位置を伝え、ともに歩もうとする教員としての姿勢は、「小さな実験大学」と呼ばれた和光の真髄ともいえるものだった。本特別企画は、そんな道場教授の人となりや業績をしのぼうと、現代社会学科教員一同の発意で企画された。

(現代社会学科長・竹信三恵子)



——プロフィール

1967年愛知県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。早稲田大学文学部助手、各大学非常勤講師、予備校小論文添削者などを経て、2009年4月、和光大学の教員となる。専門は日本社会科学史・社会運動論。1920年代と第二次大戦後の社会科学思想に関心を持つとともに、1950年代のサークル文化運動、1970年代の市民・住民運動について聞き取り調査と資料保全活動が続けていた。

——追悼文

時代からはずれたひと、道場親信について

酒井隆史

道場さんが刺激した和光大学

堂前雅史

愛さずにはられない仲間

挽地康彦

道場親信 主な著作・論文